



テノール歌手
湯沢市ふるさと応援大使

中鉢 聡さん



佐藤 一夫 市長



雄勝郡会議事堂記念館(旧雄勝郡会議事堂)築130年記念事業として、11月6日に同館で開催された「中鉢聡Healing Concert」



Profile

中鉢 聡
Satoshi Chubachi

1966(昭和41)年生まれ。東京芸術大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第11期修了。湯沢南中学校まで吹奏楽部でトロンボーンを担当、湯沢高校では音楽部に所属。1990年オペラ「ねぶり流し物語」でデビュー。1995年「椿姫」で藤原歌劇団デビュー。1996年イタリア留学。帰国後は数々の舞台に出演、「耳なし芳一」「ロメオとジュリエット」で主演を務める。サッカー親善試合やオリンピック結団式で国歌を歌うなど、日本を代表するテノール歌手として活躍中。洗足学園音楽大学声楽コース客員教授。

競うよりも楽しむことを

(佐藤市長、以下「市長」) いつもふるさと応援大使として湯沢市の応援をしていただきありがとうございます。音楽のまち「ゆざわ」を宣言してから、来年で15年を迎えます。推進協議会のかたがたがとも頑張っていて、ボランティアスタッフも年々増えています。市としても、今後さらに盛り上げていきたいと思っています。

(中鉢聡さん、以下「中鉢」) 有名な方を呼んでくるばかりでなく、地域のかたがたが出演し、地域のボランティアがたくさん携わるといのは素晴らしいことです。音楽が嫌いな人はいない、音楽は誰でも楽しめるものだと思っています。自分の生まれ育ったところに音楽を好きな人が多く、「音楽のまち」として頑張っていることを大変うれしく思います。

(市長) 11月5日にゲスト出演された湯沢高校吹奏楽部OB会記念演奏会では、入場料をウクライナ人道危機救援



金として寄付されると聞きました。

(中鉢) 私もできることがあれば何かしたいという思いを持っていましたので、OB会から今回の話をいただき、その趣旨に賛同し実現することができました。

(市長) 実は、私は吹奏楽部保護者会の会長をした経験があり、音楽のことは詳しく分からないながら、子供たちがひたむきに演奏する姿に感動しました。音楽が与える影響は本当に素晴らしいですね。

(中鉢) 音楽を聴いて感動したときには、脳内でドーパミンという「やる気」や「幸福感」をもたらす物質が分泌されるそうです。音楽は人を元気にする力があります。私は、たくさんの方が音楽を聴き、感動すれば、みんなが元気に幸福になるという思いで活動しています。

(市長) 中鉢さんが音楽の道を志したきっかけは何でしょうか。

(中鉢) こんなことを言うかと怒られるかもしれませんが(笑)、本来音楽は



競い合うものではないと私は思っています。

私が中学2年生のときの吹奏楽コンクールで、当時の3年生の演奏がとても素晴らしく、私は「賞を狙える」と確信していました。しかし、結果は演奏時間オーバーで失格。「いい演奏が認めてもらえないってどういうことだ」と憤りを感じたことが、本格的に音楽の勉強を始めるきっかけになりました。

(市長) 審査には基準があることは仕方がないことですよ。そんな中(笑)、今年、吹奏楽や合唱のコンクールで市から6団体が県代表に選出されました。頑張っている後輩たちに向け



11月5日に湯沢高校吹奏楽部創部65周年を記念して開催された「湯沢高校吹奏楽部OB会記念演奏会」にゲスト出演

てメッセージをお願いします。(中鉢) コンクールでは素晴らしい結果だったようで私もうれしく思っています。学生時代にみんなと一緒に音楽を作るということは、その時にしかできない貴重な時間です。失敗しないようにはなく、テンポや音程が多少ずれても、楽しんで、人の心に響く、いい音楽を作り上げてほしいと思っています。